放流20年 日本に帰還へ

ウミガメ

太平洋回遊 ハワイで育つ

名古屋の水族館調査

名古屋港水族館（名古屋市港区）は約20年前からアカウミガメの放流に取り組み、これまでに5千匹以上を太平洋に送り出してきた。調査で、多くが米ハワイ近海で成長することなど謎だった生態の一端を明らかにした。20年の歳月を経て、最初に放流したカメが産卵のため日本に帰還する時期に差しかかるとみられ、生態解明への期待が高まっている。

「人工繁殖の個体は野生に比べて体力が劣りがち。元気に生きているとは」。今年4月、2012年に沖縄・黒島で放流した絶滅危惧種タイマイが約千キロ離れた鹿児島・屋久島周辺で確認され、水族館は沸いた。ウミガメ飼育担当の松田乾さん(46)も喜びをかみしめた。

同水族館ではウミガメ保護のため放流に力を入れ、10年からはタイマイも加えた。そもそも放流を始めたのは1995年。この年、世界で初めてアカウミガメの人工飼育施設で産卵、ふ化に成功した。97年には絶滅危惧種に指定され、これまで愛知・渥美半島海岸や千葉・房総半島沖などで、主に人工ふ化したアカウミガメ計5038匹を放流した。

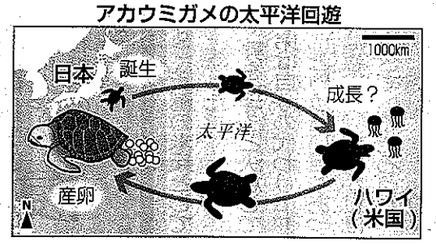
識別番号を記したタグを付けているほか、2003～11年には米海洋大気局（NOAA）と共同で甲羅に発信器を付け、人工衛星で回遊経路を調査した。

それまでの研究では、アカウミガメは黒潮に乗って太平洋を北上。東へ向かい北米大陸西岸を南下し、北赤道海流の影響を受け日本に戻ると推定されていた。しかし調査の結果、1年以内でハワイ北西の日付変更線付近の海域にたどり着き、多くはそのままとどまっていることが分かった。ハワイ北西海域は、暖かい海水と冷たい海水の境があり、プランクトンが豊富。餌となるクラゲや、カニやエビが付着した海草も流れ着き、成長に適した場所とみられる。

アカウミガメは長旅の中で成長し日本に戻って産卵する。長期間の追跡調査は難しく、大海を渡る期間や産卵する年齢など解明すべき課題は山積みだ。

松田さんは「20年前に放したカメがそろそろ産卵のため陸に上がってくるころ。産卵サイクルが分かれば、生息数の割り出しや保護活動に役立つ」と話している。

名古屋港水族館の識別番号タグを付け、放流されるアカウミガメ＝5月、愛知県蒲郡市



アカウミガメ 太平洋や大西洋、インド洋の熱帯から温帯域に生息するウミガメの一種で、体長は大きいもので1㍍になる。太平洋での産卵地は日本の関東以西の本州、四国、九州、南西諸島にほぼ限られており、日本での保護活動が重要とされる。産卵場の砂浜が減少したり、漁網にかかり死んだりして生息数が減少。旧環境庁が1997年、絶滅危惧種に指定した。寿命はよく分かっていないが、確認されている世界最高齢は、徳島県美波町の「日和佐うみがめ博物館カレッタ」で飼育されている64歳の雄。

「みとり」援助士養成へ

在宅医らが協会設立

高齢化に伴い亡くなる人の数が増えていく中、自宅や施設で穏やかな最期を迎えられるよう、横浜市の在宅医らが「みとり」に対応できる人材の育成を目的に「エンドオブライフ・ケア協会」（東京）を設立した。

約1500人を在宅でみとった経験を持つ「めぐみ在宅クリニック」（横浜市）の小沢竹俊院長が中心となり、7月から医療や介護従事者向けに2日間の養成講座を開く。初回の講座は都内で開催予定。修了後、実際に患者らに対応し、リポートを提出すれば「エンドオブライフ・ケア援助士」として認定する。

2025年には年間死者数が現在よりも約30万人多い約160万人に達するとみられる。

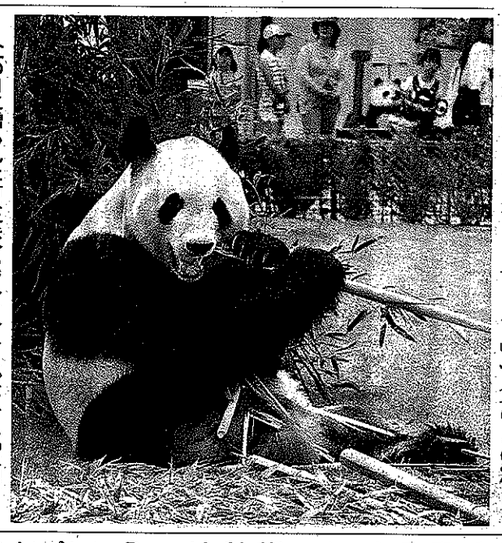
問い合わせは同協会（メールアドレス、info@endoflifecare.or.jp）まで。

甲状腺がんの最新治療法学ぶ

富山で市民公開講座

富大医学部第2外科と北國・富山新聞社などで構成する「医療と食の充実推進協議会」は21日、富山市の富山国際会議場で、富山県医学市民公開講座・がん治療最前線を開催した。19回目の今回は「よくわかる！ 甲状腺がん診療」をテーマに、約600人が甲状腺がんの基礎知識や最新の治療法に理解を深めた。

富大附属病院長の塚田一博消化器・腫瘍・総合外科教授が進行役を務めた。特別講演では、筑波大乳腺・甲状腺・内分泌外科の原尚人教授が超音波機器を活用した診断法や内視鏡を使った手術法、放射性ヨウ素と小児甲状腺がんの関係などを紹介した。



父の日に贈られた竹を食べるジャイアントパンダの「永明」＝21日、和歌山県白浜町のアドベンチャーワールド

父の日 最高のプレゼント

4種類の竹30キロを贈る

和歌山・白浜の施設

和歌山県白浜町のレジャー施設「アドベンチャーワールド」で父の日の21日、これまでに同施設で飼育されたジャイアントパンダのうち13頭の父親（22歳）に感謝の竹約30キロが贈られた。

施設によると、竹は2種類の竹段は良く、昨年12月に「良浜（ラビン）」との間に生まれたメスの子パンダ「良浜」がうけた。

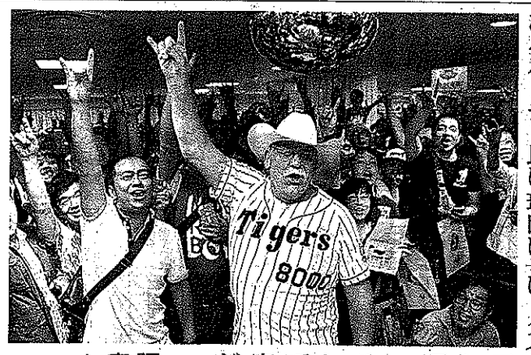
大阪市の会社員の男性さん(39)は「優しいパパ」という永明を見習いたいサービスをしたいと話した。

スタン・ハンセン氏 阪神ファンと交流

声張り上げ「ウィー」

阪神百貨店梅田本店は21日、父の日に合わせて往年のプロレスラーで父親世代に人気のスタン・ハンセン氏(65)を招き、トークショーを開催した。阪神タイガースのファンでもあるハンセン氏は球団にエールを送る交流、野球とプレゼントにとプレゼントにだ。

タイガースを着たハンセンを取りながらと声を上げた。は「タイガー



「百日紅」に審査員賞

【パリ共同】フランス東部アヌシーで20日まで開催されていたアヌシー国際アニメーション映画祭で、日本の原恵一監督の「百日紅（さるすべり） Miss HOKUSAI」が長編部門の審査員賞を受賞した。

「百日紅」は江戸風俗研究家の故杉浦日向子さんの連作短編漫画が原作で、江戸時代の浮世絵師・葛飾北斎の娘、お栄の恋と画業を情緒豊かに描いた作品。日本では5月9日から公開されている。

世界最長、1595.45㍍ピザ

【ミラノ共同】イタリア・ミラノ国際博覧会（万博）で20日、イタリアのピザ職人たちが世界最長のピザ作りに挑戦、会場の大通りで長さ1595.45㍍のピザを完成させ、ギネス記録に認定された。これまでの記録はスペインの1141.5㍍だったという。

主催者によると、職人80人やボランティアら総勢300人以上が参加。19日夜から生地作りなどの準備に取り掛かり、20日午前に来場者らが見守る中、移動式オーブンを使ってモッツァレラチーズにトマトをトッピングしたピザを焼き上げた。使用した小麦粉は約1700キロ、トマトは1500キロ、モッツァレラチーズは1700キロで、約3万5千人分相当。ピザは計測後、来場者らに振る舞われるなどした。

20日、イタリア・ミラノ万博の会場で、完成したピザの長さを計測するギネス記録の認定員（共同）

トピックス

英歌姫、カザフ宇宙飛行士に交代か

【モスクワ時事】インタファクス通信によると、ロシア宇宙庁関係者は20日、9月の宇宙旅行を断念した英国の世界的ソプラノ歌手サラ・ブライトマンさん(54)の交代要員に、カザフスタンの宇宙飛行士が内定する見通しだと明らかにした。ブライトマンさんの「交代要員」として、日本で宇宙旅行会社を経営する高松聡さん(52)がモスクワ郊外などで訓練を受けてきた。カザフの飛行士に最終決定すれば、高松さんは9月の宇宙行きがなくなり、改めて機会を模索することになる。

長野「伍郎のきぬ」が金賞

京都府豆腐油揚商工組合（東田和久理事長）は21日、「日本一旨い豆腐を決める品評会ｉｎ京都」の表彰式を京都市内のホテルで行い、長野県の「富成伍郎商店」の「手塩にかけた伍郎のきぬ」を金賞に選んだ。

品評会は豆腐の製造技術の向上を目的に20日に開いた。全国規模の品評会は業界で初めてで、全国から128品の豆腐が出品された。外部審査員や豆腐業界の審査員が「外観（見た目）」「香り」「味」「食感」の4項目について5点満点で評価した